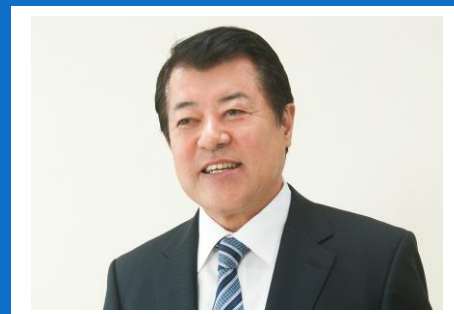


戸田ゆうじ議会報告



新しい 淡路市をつくる



2020 8月号

「残暑お見舞い申し上げます」

淡路市議会議員 戸田ゆうじ 後援会発行

NO.7

人口減少から増加への鍵

裏面：聖隷淡路病院 分娩中止 その対策 他

「人口問題：現状でよいのか？」

淡路市の大きな課題である人口減少問題。

少子高齢化の波は全国的な流れではありますが、特に淡路市の少子化は厳しい現実があります。

平成 17 年 4 月～淡路市の人口推移 〈住民基本台帳による〉

年・月	H17.4	H22.4	H27.4	R 2.8
人口	51,508	48,800	46,142	43,159
世帯数	19,040	19,546	19,918	20,021

淡路市の総人口は、**合併時**の平成 17 年 4 月 1 日時点で

51,508 人。世帯数は、19,040 世帯。

現在の総人口は、令和 2 年 8 月 1 日時点で **43,159 人**。

世帯数は、20,021 世帯。

(これは住基台帳による数字で、実際市内に住む人口は、

41,250 人程度)

合併後、**8,350 人程度**の減少となっています。

これは、現在の東浦地区の人口と同程度の人口が市内から消失したといえるのです。

逆にこの間、世帯数は 1,000 世帯程度増加しています。この大きな理由は、単独世帯、つまり一人暮らしの高齢者世帯が増えていることを示しています。

現在、淡路市が人口ビジョンとし、将来目標としている人口

	R 7	R12	R27	R42
人口	39,175	37,037	31,561	27,904
合計特殊出生率	1.50	1.60	2.05	2.10

「第 2 期淡路市地域創生総合戦略人口ビジョン R2 年 3 月策定」より

* 合計特殊出生率とは、一人の女性が出産可能とされる 15 歳から 49 歳までに産む子供の数の平均

この人口推移と市が目標としている人口数をご覧になって、皆さんはどのように思われますか？

もちろん、人口減は日本全体の大きな問題です。しかし、現状の減少基調の推計で図った数字を、甘んじて市の人口ビジョンとして目標に掲げることに疑問を感じます。そこには情熱や熱意が全くかがえません。

市長はよく、「身の丈に合った」という表現をされます。それは表向きには耳ざわりの良い言葉ですが、**実は淡路市の価値と市民の利益を損なう考え方ではないか**と思います。現在の身の丈を目指す市政であれば、おそらく人口ビジョンとして示している表のような推移となってしまいうでしょう。

しかし、**この時代にも、人口増加(中でも若年層)している市町村があります**。例えば、千葉県流山市、愛知県長久手市、福岡県福津市…そして**最も近い明石市**などが該当します。

人口増加の鍵は… 裏面につづく

「わかりやすい明確なビジョンを！」

では、明石市の人口推移を見てみましょう。

平成 17 年 4 月～明石市の人口推移

年・月	H17.4	H22.4	H27.4	R2.8
人口	291,687	292,550	291,479	299,640

平成 17 年から 27 年まで横這いで推移していた人口が、平成 27 年 5 月、現在の市長が市政を担うようになってからの人口増加が見てとれます。

人口増加している市の共通項は、子育てしやすい環境づくりと施策を徹底しているという点、都市近郊である点です。

明石市の「子供を核とした街づくり」は、「やさしい社会を明石から」のメッセージを掲げ、わずか 5 年足らずで「子育てにやさしいまち」としてブランドが確率された結果、若い家族が流入しているのです。

このように、**明確な政策と強いリーダーシップにより、市の方向性は大きな魅力を持った特性(ブランド)となり得ます。**

振り返って、私たちの淡路市はどうでしょう？

現在、「子育てにやさしい淡路市」といえるでしょうか？

また、強力な特性はあるでしょうか？

近年、市内で企業誘致や飲食店の成功はありますが、一般市民にとって「住みよいまち」となっていますか？

農業、漁業、山海の幸に恵まれ、美しい景観を持ち、阪神間からも近い…それだけの魅力を持ちながら、なぜ、合併後 15 年以上経過した現在も、人口減少の一途をたどり、それを将来目標に据えるのか？

淡路市は、阪神間への通勤も可能な立地です。

市内で唯一人口減少していない地域、東浦は、温暖な気候もさることながら、道の駅からバスで神戸へのアクセスの良さが大きな魅力であり、実際、通勤・通学されている方も多くおられます。

つまり、**交通アクセス、住宅の確保(空家を含む)、子育てにやさしいまちづくりを徹底して行えば、人口増加に転じることも可能**です。

今後、具体的な案をお伝えしていきたいと思います。

聖隷淡路病院、分娩中止 その対策

昨年(2019年)12月で分娩・妊婦検診を中止した聖隷淡路病院。現在、再開の見込みもない状況です。これを受け、県立淡路医療センターでは昨年10月より里帰り出産の受け入れを再開していますが、月に55件と上限を設定しているため、希望しても対応不可の場合もあると聞きます。

私は「**バースセンター**」の設置を提案します。

「バースセンター」とは、できるだけ医療の力を借りず、お母さんと赤ちゃんが主役になり、助産師が出産を担い「自然なお産」をしていただく場所(院内助産システム)です。

妊婦さん一人ひとりに安全で満足のいく「お産」をしていただくため、助産師によるきめ細やかなケアを提供しながら、自然分娩をしていただく。そのため、「助産師外来」の設置が重要となります。妊産婦の多様なニーズへの対応と、医師負担の軽減を目的に**国においても「バースセンター」設置を推進**しています。

…市民目線の方向性を…

現在、市のキャッチフレーズ『いつかきっと帰りたくなる街づくり』に象徴される考え方は、今、私たち市民が生活の中で求める行政サービスや、住民が主体となるべき市の将来像と隔たりがあるのではないのでしょうか？

まず**現在の状況では、淡路市の明確なビジョン(展望)がわかりません。淡路市は何を目指しているのか？どうなるのか？**

市の財産である廃校になった小学校の無償譲渡にはじまり、岩屋アソンプレホール浜からコンビニ間市有地の譲渡、他、施設管理。地方創生事業を一企業に委ねるような短絡的な方針は、リスクが大きく、公平感に欠けると感じます。企業ありきでしか活性できないのであれば、市長はリーダーとして力不足といえます。

4期首長(1期4年)を務めながら、**市の全体像と明確なビジョンは未だ示されていないのです。**

戸田ゆうじ が考える「新しい淡路市」

もっと良くなる淡路市！

市民に寄り添い、挑戦する行政

- 少子高齢化が進む中、人口増に挑戦
- 子育て世代支援の充実と環境整備

各地域で挨拶運動実施中！

本チラシ、議会、行政、地域の案件などについてご意見、ご相談は、

戸田ゆうじ mail:cosmo.007@i.softbank.jp または fax:0799-72-3282

までご連絡下さい。